２０２３・１・２２　　黄金井尚美　主任牧師

＜主は生きておられる＞

Ｉ列王記１７：１～７

晩年のダビデ王

私のいのちをあらゆる苦難から救い出してくださった主は生きておられる。　Ｉ列王１：２９

あらゆる苦難･･･王としての様々な労苦や、自分が犯した罪による苦しみ。

「主は生きておられる。」　どんな時にも神から離れず、神と共にあった。

【アハブ王】

この時代の権力者であり、悪王であった。太陽と雨を司るとされた豊穣神のバアル神の偶像を民に拝ませた。バアル神の祭壇が国中にあふれていた。

「だれよりも主の目に悪とされることを行なった。」（16:30）「それまでのイスラエルのどの王にもまして、イスラエルの神、主の怒りを招くことを行なった。」（16:33）

①カラスが養う

４節「わたしは烏に、そこであなたを養うように命じた。」

この言葉はエリヤにとって確かな保証となったのだろうか？

５節　それで、彼は行って、主のことばのとおりにした。すなわち、彼はヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに行って住んだ。

②やもめが養う

９節「さあ、シドンのツァレファテに行き、あそこに住め。見よ。わたしは、そこのひとりのやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」

【シドンのツァレファテ】

アハブ王の王妃イゼベルの出身地。バアル信仰の最も盛んな地。

敵地の真ん中に行って生きよとエリヤは命じられた。

◆　神様は、何故「カラスとやもめ」を用いられたのだろうか。

カラスは忌み嫌われた鳥　／　やもめは貧しい

心もとない存在に、エリヤ自身の信仰も試されたのではないか。

預言者は、単なる神の言葉の伝達者ではなく、その言葉に生きる者。

１節「私の仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。」

◆カラスや、やもめに養われる。人間の考えを超えるような体験により、自分の力ではなく、神によって生かされている事を知る必要が、これから更に深まる過酷な状況で主の任を果たしていくエリヤにはあった。

＜新約の時代＞

「主は生きておられる」

救いの道を完成され、復活されたイエス様に向けて使われている言葉。

◆弟子たちは、イエス様が復活されたのにもかかわらず、主は生きておられると、すぐには告白することはできなかった。　何故･･･？

暗い心のままだったから。その心が鈍かったから。

するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」　ルカ２４：２５、２６